

日本チャールス・リバー(株)日野飼育センター

亀山 巖

日本チャールス・リバー(株)

当社の日野飼育センターは滋賀県のほぼ中央である日野町の自然に恵まれた環境に立地しています。当センターは昭和59年に西日本地方への実験動物供給のため、高品質のSPF/VAF動物(ラット、マウス)を目的とした施設を建設しました。

建物の構造は鉄筋コンクリート2階建てで、飼育室は完全なバリアーを維持できる種々の工夫が施されています。各室共温湿度は一定にコントロールされ、清浄空気で通気し、良好な飼育条件となっています。飼育室を中心に空調関連の機械が設置されており、停電対策用に自家発電機も備えた重装備の施設です。

この様な環境条件で生産された実験動物は、一定の規格・基準を満たすものが出荷されています。

また、当センターの大きな特徴は、飼育施設は外部からの病原体の浸入を防止し、バリアーを維持するため色々な点から工夫されており、また施設・飼育者自身の管理にも重点がおかれています。

主な点をあげると次の通りです。

飼育棟

鉄筋コンクリート2Fで、床はエポキシ樹脂、天井・壁はビニールペイント吹付の仕上で、飼育室全体が気密性を保持し、各所にシールの工夫が施してある。

温度 $23^{\circ}\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $55\pm 10\%$ の条件で、室圧を水柱8~10mm陽圧で安全を保っている。

ロックルーム室

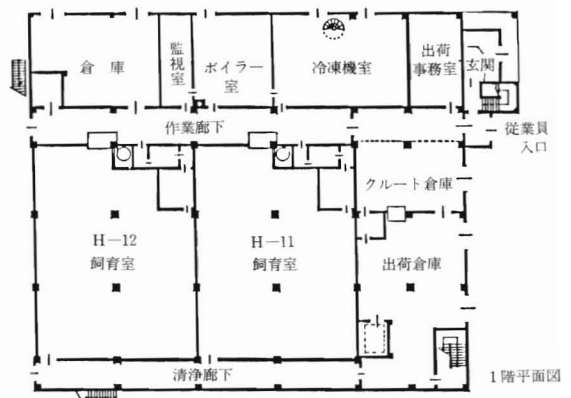
飼育管理者の飼育室入退室は重要なポイントで、電磁ロック方式を各ドアに取付け外気の侵入を防ぐ装置をつけている。

出荷廊下

出荷作業は、飼育室に附属されている専用の廊



(日野飼育センター外観)



下を設け、箱詰を作業基準に従って行ない、直ちに消毒済の空調車に積み込む準バリアーの施設となっている。廊下は一定時間毎に殺菌剤を自動スプレーしている。

滅菌及び給水・給気装置

飼料・床敷及びケージ等は高圧蒸気滅菌で処理する。給水は紫外線と次亜塩素酸ナトリウムの滅菌工程を経て飲水としている。飼育室への給気はHEPA フィルター (0.3 μ) で除菌後、清浄空気を各ラックに均一なる風量及び風向を工夫して通気を行っている。

バリアー維持管理

飼育施設に於けるバリアー維持は、飼育管理者にとって高品質の動物を飼育繁殖する基本です。厳しい作業基準と全体作業のシステム化を実行している。

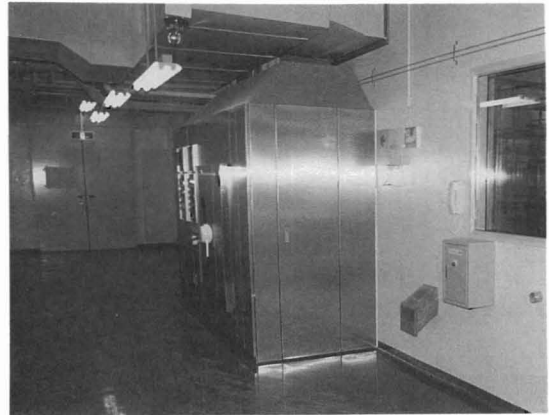
特に以下の点を重視している。

- (1) 外部よりの動物は施設に持込禁止
- (2) 部外者のバリアー・準バリアー区域への立入禁止
- (3) 野鼠の侵入防止の設備及び専門業者による管理
- (4) 飼育管理者の衛生教育、各飼育室に固定、家庭でのペット飼い禁止及び病気時の入室禁止
- (5) 入室は温水シャワーで、一定の基準に従いブラッシング洗浄（髪から足先まで）
- (6) 飼育室の消毒作業の実施
床等を次亜塩素酸ナトリウムで消毒清掃（2回/日）する。
ドアノブ、出荷用シュート等はヒビテンアルコールでスプレー消毒を定期的に行う。
尚、ロックルーム室も同様である。

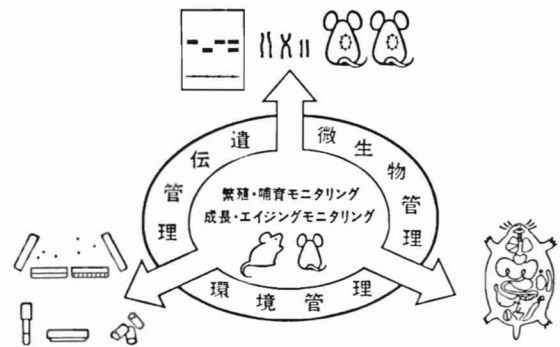
環境及び動物検査と各種モニタリング

定期的な検査と日常のチェックシステムを導入、更に飼育室内で各種モニタリングを常時実施し、動物の状態を監視している。

飼育環境：定期的微生物チェック



(高圧蒸気滅菌機)



モニタリングシステム

飼育繁殖：毎週の管理表及び各個体カードを各人が成績をまとめる。各品種の短期・長期モニタリングデータを採取し解析する。

動物検査：定期的に当センター及び米国チャールス・リバー社で剖検、各微生物チェック及び血清反応検査を実施している。更に近交系動物は隔年1回皮膚組織適合性検査を行ない品種の維持に努めている。

一方、当センターの特徴として常時動物がチェックできる体制を採用している。

以上、日野飼育センターは、当施設より飼育・生産された実験動物の高品質の維持と各研究者の要求に応える動物をつくることに日夜努力しております。